令和６年度第２回袖ケ浦市総合教育会議　議事録

１　開催日時　　令和７年２月１９日(水)　　午後４時００分開会
午後５時１５分閉会

２　開催場所　　市役所北庁舎３階災害対策室

３　出席構成員

市長	粕谷　智浩	教育長	鴇田　道雄
教育長職務代理者	中村　伸子	教育委員	髙野　隆晃
教育委員	若林　洋子	教育委員	石井　正己

４　出席職員

教育部長	生方　和義	企画政策部長	千田　和也
教育部次長 （教育総務課長）	高浦　正充	企画政策部次長 （企画政策課長）	平野　剛志
教育部参事 （学校教育課長）	鈴木　大介	総合教育センター 所長	鳥海　隆之
生涯学習課長	重田　克己	スポーツ振興課長	大久保　治彦
学校教育課副参事	吉田　広乃	教育総務課副参事	中山　義也
学校教育課 指導主事	齊藤　崇	総合教育センター 研究指導主事	柴﨑　昌紀
教育総務課副課長	齊藤　幸子		

５　傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	５人
傍聴人数	０人

６　次第

１　開会

２　市長あいさつ

３　議題

（１）本市のＧＩＧＡスクールの現状について

（２）袖ケ浦市子ども議会について（成果報告等）

（３）その他

４　閉会

７　議　事

１　開会

（教育部長）

ただ今から令和６年度第２回袖ケ浦市総合教育会議を開会いたします。

会議の事務局につきましては、地方自治法第１８０条の２の規定により、教育委員会が補助執行することとしておりますので、進行は私、生方が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。なお、総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第６項の規定により、原則公開となっておりますが、本日、傍聴人はございません。

それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。まず、はじめに、粕谷市長よりご挨拶をお願いいたします。

２　市長あいさつ

（市長）

「令和６年度第２回総合教育会議」の開催にあたり、主宰者として一言ご挨拶を申し上げます。教育委員の皆様には、日頃から本市の教育の充実発展にご尽力をいただいておりますことに、改めてお礼申し上げます。

また、皆様ご存じのとおりではございますが、１２月定例会で議会の同意を得て髙野委員が再任されました。髙野委員におかれましては、引き続き、本市教育行政の発展のため、お力添えをお願いいたします。

さて、令和３年５月の工事着手以来、４年近くに渡る工事期間を経て、市役所の新庁舎が無事に竣工し、去る２月８日に竣工式を挙行し、２月１０日から供用開始しました。工事期間中は、教育委員の皆様を始め、市民の皆様にご不便をおかけいたしましたが、ご理解を賜り感謝申し上げます。これまでの３階建て旧庁舎と７階建て庁舎は、どちらも完成から４０年以上が経過し、耐震基準を満たさず、防災拠

点としての機能を維持することに問題がありました。東日本大震災を契機とした災害に対する意識の向上、また、熊本地震では、耐震基準を満たしていなかった市庁舎の一つの階が潰れたことにより行政機能が麻痺した市の事例などが報道され、早期における庁舎整備の必要性はますます高まるばかりでございました。そのような中、私が市長に就任した直後の市議会定例会で、庁舎整備にかかる契約締結の議決をいただき、工事を進め、今般、全ての工事が完成の運びとなったものです。市民の皆様のご意見を伺い、ともに作り上げた新庁舎は、防災機能を強化しただけでなく、市民交流広場では、ベビーカーを押した家族連れが休憩をしたり、学生さんたちが自習をしたりする姿が見られるなど、皆様が集まれる場を提供できるようになったと考えています。

本日の会議では、「本市のＧＩＧＡスクールの現状について」及び「袖ケ浦市子ども議会について（成果報告等）」を議題とさせていただきました。

議題１の「本市のＧＩＧＡスクールの現状について」は、以前に、千葉県教育委員会と千葉県市町村教育委員会連絡協議会共催による教育長・教育委員研修会において、文部科学省の講師から「ＧＩＧＡスクール構想について」と題して、全国の学校におけるネットワークの現状やＩＣＴの活用状況などの説明があったと伺っております。本市の現状についてお示しし、教育委員の皆様と共通認識を図る機会とさせていただきたいと考えております。

また、議題２の「袖ケ浦市子ども議会について（成果報告等）」は、昨年度に引き続き実施しました「袖ケ浦市子ども議会」について、今年度は、市内中学校代表者会議の開催や私への報告会を開催するなど、「子ども議会」後の継続的な発展がございましたので、これらを含めた成果等についてご説明をさせていただきます。

本日のこれら２件の議題は、新しい時代を担う子供たちのため、より良い教育環境を整え、確保するために推進する取組の一部でございます。今後とも、皆様方と協議を深め、袖ケ浦市の教育環境の一層の充実のため、互いに連携して取り組んでまいりたいと存じますので、教育委員の皆様から忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

３　議題

（教育部長）

議題（１）「本市のＧＩＧＡスクールの現状」について説明をお願いします。

（総合教育センター所長）

ＧＩＧＡスクール構想の目的は、多様な子供たちを誰１人取り残さないというこ

とで、全ての子供たちにしっかり学力をつけ、個別最適化され資質能力が確実に設定されることを狙いとして整備するものです。方法としては、１人１台端末と高速大容量ネットワークの整備で、市では校内無線ＬＡＮ整備工事、充電保管庫整備、ファイアーウォール設置、タブレットの整備をしました。ネットワークの保守や児童数の増加に併せた回線の増設工事も進めています。

今後の方向性としては、端末更新、通信ネットワークの改善、地域間活用格差の解消、クラウド環境を活用した校務ＤＸの加速が必要になるだろうと言われており、この４点について、本市の状況を説明します。

一点目の、端末の更新についてです。

令和８年１月使用開始に向け、児童生徒機５，６３２台、予備機８４５台、教師用３９５台を５年リースで、県内他自治体との共同調達で更新する予定です。

二点目の、通信ネットワークの現状についてです。

子供たちが一人一台のタブレットを用い、先生方も授業等で活用するＧＩＧＡ系と、先生方が一人一台持つ校務ＰＣで業務を行うウグイスネット系の２つがあります。本市のＧＩＧＡ系の通信環境は、ベストエフォート型回線で、減衰を見込んで実質３００Ｍｂｐｓを想定しており、学校から直接接続していますので良好な状況です。学校規模に応じた文部科学省の推奨値と学校値を比較すると、学校値の方が上回っていますので、本市は文部科学省の推奨値を満たしていると判断しています。これはあくまでも数字上の問題ですので、実際使ってみてどうかという点が大事ですので、必要な対応をしっかりとってまいります。

三点目の、端末の活用状況についてです。

個別最適な学びと協働的な学びにおいて、学習の自己調整ということが言われており、ＩＣＴを使って自分の学びを調整できるようにすることが大事になってきます。個別最適な学びとしては、位取り表や作文構成のカードが必要に応じていつでもタブレットで使え、一人一人の学習調整が十分に図られています。また、家庭科では、先生が手縫いの仕方を録画しアップすることにより、分からなければ確認しながら作業をすることができ、使うか使わないかの選択が、子供たちに委ねられています。次に、協働的な学びとしては、協働の他者参照が言われています。物事に対して子供の考え方の揺らぎが出るものがありますが、それを子供たちはこのタブレットで上手に表現するようにできます。また、子どもたちがタブレットでスライドを作り、見合うことにより、話し合いの材料にしていく事例もあります。さらに、発表が苦手な子供たちのためには、意見を打ち込んで交流させるものもあります。

タブレットの活用事例は着々と増加していると思っていますが、課題としては、中学校の端末の活用を増やしていければと思っています。また、学校間の格差、教

員間の格差も大きいと考えられることから、そこを埋めていくことが必要であり、センターとしては、インストラクターの派遣やＧＩＧＡスクール研修会に行き、先生方の力量アップに努めているところです。

今後のＤＸ化に向けた取組については、文部科学省から校務ＤＸ化チェックリストが出され、本市の状況を把握したところ、クラウド化や保護者への文書発信などの面で進んでいると考えられます。学校の働き方改革に生かしていきたいので、校務支援システムをうまく活用しながら順次進めていきたいと思っております。

最後ですが、文部科学省がネットワークの改善に関する目標値を定めていますので、教育センターの方でもいろいろと進めていきます。

（教育部長）

説明が終わりましたがご質問ご意見をお願いいたします。

（石井委員）

回線の繋がりやすさは基本的に重要な問題で、各学校の学校値が文部科学省の推奨値よりも高いので大丈夫との説明がありましたが、実際に学校での繋がり具合はいかがでしょうか？

（総合教育センター所長）

先生方の話では、袖ケ浦市のインターネット環境での繋がりやすさは良好だと伺っております。

（石井委員）

５頁の表中、同時使用率１００％を超えているものがありますが、これはどのようなものですか。

（総合教育センター所長）

同時使用率とは、学校の中でどれぐらいの子供たちが同時に使用するかというものです。１００％を超えているというものは、全員が一斉に使っても十分なスピードを維持しているとご判断ください。

同時使用率が５０％となっている学校がありますが、これは全校のうちの半分の子が良好に使えるということを表しています。１日のうち全校児童が一斉に使うことはあまりあり得ないことですので、導入当初は５０％あればいいという設計でした。それに対して１００％は、全員が一斉に使っても大丈夫だという数字であり、

１００%を超えているものは全校児童よりもさらに多くの人が同時に使ったとしても十分に利用できるという意味です。

（石井委員）

ただ今の説明でよくわかりましたが、資料には、全学校について数値でもクリアし、状況も大丈夫であるというような説明を付け加えてください。

（髙野委員）

現場の先生たちの声として何かトラブルはありますか。また、タブレットの活用状況として、小学生は持ち帰って活用しているようですが、中学生はどうですか。

家庭の中でＷｉ－Ｆｉ設備の整っていない子への対応はどうですか。

他市ではカメラ機能による盗撮等トラブルなども耳にしますが、本市の対策はどうですか。また、テレビで、子供の視力の低下の背景にタブレット教育があるという声がありましたが、目を休めるなどサポートも必要ではありませんか。

（総合教育センター所長）

現場でのトラブルとしては、ネットワークが繋がらなくなってしまったというものが多くあります。いわゆるアクセスポイントなど回線そのものの問題になるので、インストラクターや研究指導主事がすぐ学校に行き、速やかに解消できるようにしています。職員で手に負えないものについては保守業者と連携し、障害発生時には短時間で回復できるような対応を取っています。

（教育部参事（学校教育課長））

小学校・中学校の自宅持ち帰り状況の違いについては、宿題文化の違いをご理解ください。小学校は１年生のときから読んで親御さんに書いてもらうといった宿題を出し学習させる文化がありますが、中学校になると塾の宿題などをする子もいるので、多くの学校ではそんなに宿題を出していませんので、タブレットを活用して宿題というのは多くありません。

また自宅のＷｉ－Ｆｉ環境につきましては学校で個別の状況を把握しています。ネットワークが必要な宿題を出す場合には、各学校が配慮して出しています。基本的にはオフラインでできるようなソフトで宿題を出していますのでＷｉ－Ｆｉ環境がないお子さんに不利益がないように配慮しています。

盗撮等の問題については、他市ではいろいろなトラブルが起きていますので、スマホも含めた情報モラル教育を徹底していかなければいけないと考えており、各学

校に実施を促しています。

最後に視力との関係ですが、スマホの所持率が大変高くなっている現在、視力低下が全てタブレットに起因するとは言い切れませんので、科学的な解明を待ちたいところです。

（教育長職務代理者）

ＩＣＴインストラクターの派遣による授業支援が増加しており、とても良いと感じています。トラブル研修等も含め、令和６年度は５７１回と多く派遣され、理想的な数だと思います。また、ＩＣＴインストラクターを市費で雇用している点には大変感謝しています。

端末の配布については、県費雇用職員以外にも、市費雇用職員など袖ケ浦市には授業に関わる方がたくさんいるので、皆さんに端末が不足なく行き渡るようにしていただきたいと思います。

（石井委員）

資料中８頁のＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸチェックリストについて、市の状況として、〇は十分実施・△は一部の学校で実施とありますが、十分実施とは、どのような意味ですか。

（総合教育センター所長）

「全校」と読み替えて下さい。〇は全校で実施、△は一部の学校で実施となります。

（市長）

家庭科でボタンを止める映像などがありましたが、その映像は先生個人がデータを持っているのでしょうか。

（総合教育センター研究指導主事）

グループウェアであるＴｅａｍｓにアップし、先生と子供たちで共有していました。

（市長）

先生一人で作るとなると大変な作業となり、横展開も困難かと思いますが、国語や数学、家庭科等の授業用コンテンツを、教育センターが中心となり閲覧できて使

えるようにすると、教育の標準化の観点からも、共通コンテンツとして共有できるのではないでしょうか。

（総合教育センター研究指導主事）

各先生が作ったものを学年レベルで共有しているようですが、市内全体での共有は今のところまだ進んでいないのが現状です。

（市長）

ネットワーク系で皆さんが見られるフォルダーがあるとのことですので、共有していただけると、より使いやすくなりますし、他の先生がどのようなことを教えているのかという気づきにも繋がるものと思います。

先程、中学生がタブレットを活用しきれていないという話が出ましたが、中学校では、宿題ではなく自ら学び取り組むために持ち帰っていないのでしょうか。

（教育部参事（学校教育課長））

各学校では、ＧＩＧＡ導入当初はかなり積極的に取り組んでいるところもありましたが、年数が経つことで、故障などが出てきているほか、様々な生徒指導面でも先ほどのご指摘のようなこともあり、学校が躊躇している傾向はあると思います。

（市長）

来年度､機器の更新も計画をしています｡教科書のデジタル化と言われている中、先程の回線速度で大丈夫ですか。令和２年度のファーストギガと言われている頃にも、回線速度が遅いのは絶対に駄目だと話をしましたが、環境がどんどん変わり、２Ｍｂｐｓで耐えられるのか疑問に感じました。同時使用率がさらに高くなりますが、どうでしょうか。

（総合教育センター所長）

適切なタイミングで見直し、検討する必要があると思っています。

（教育長）

この５年間で段階的に進んでいくと思いますが、それに合わせて回線速度を上げていかなければ教科書のデジタル化は進まないと思います。

（市長）

教科書のデジタル化はメリットがありますが、全てが音声や映像として共有されるとなると、２Ｍｂｐｓで足りるのでしょうか。

（髙野委員）

デジタル化が進んでいき、袖ケ浦市はデジタル教育の最先端教育を行なうということであれば、予算が必要だと思います。

（市長）

私は、比較的デジタル化を推奨しています。就任当時より、子供にタブレット１台を持たせたいという思いをお伝えしておりました。モラルについては、タブレットを持ったからという次元の話ではなく、子供たちがいつかは直面する課題であり、それを現場で問題として捉え、対応しているということも分かりました。

タブレットで日常的に目は使いますが、使用する媒体や入ってくる情報量が多くなる中、タブレットの有無だけの問題ではないと感じます。

予算等については、限られた財源の中ですが、積極的に組む意思は持っています。

（髙野委員）

人口を増やすためにも、袖ケ浦市はデジタル教育が進んでいると提言すると効果があると思います。

（教育長）

今、国が先導し進めていますが、現場の教職員の意識改革が重要です。授業は全てデジタル化という機会を与えられたとしても、教職員一人一人の意識が全くついていかないのです。先生方一人一人が自分の授業の質を高めるために、デジタル化を積極的に取り入れる意思を持たない限り、変化は難しいかもしれません。教育委員会が先導するのも対策の一つです。教員は自分で作成した教材が共有物という発想がありません。しかし、市役所内では全てが公的財産であり共有物となります。これを共有財産化していくＤＸなどの動きが約１０年前から盛んではありますが、教職員の意識が未だ変わらないのが現状です。タブレット活用に関しても、予算をつけて与えるだけではなく、教職員の意識変革を重視する必要があると思います。

（市長）

袖ケ浦市の中では、教育センターを中心に指導ができればいいのかと思います。

先生方一人一人、教え方のプライドがあるかと思いますが、補完できるようなツールがあることや、オンラインでできることを知っていてもらえるだけでも全く違ってくると思いますし、働き方改革にも繋がると思います。

（教育長）

教育センターが積極的に対応する仕事かと思います。

（部長）

次に、議題（２）「袖ケ浦市「子ども議会」について成果報告等」について説明をお願いします。

（学校教育課指導主事）

袖ケ浦市「子ども議会」について成果報告等をさせていただきます。今年度の子ども議会は、令和６年７月２日に開催しました。当日は各校の代表児童生徒１２名が「未来の袖ケ浦」や「市への要望」というテーマで発表し、各部局から感想を含めた回答をいただきました。

昨年度は、昭和中の発表者から、「登下校時の避難訓練」を実施して欲しいと提案があり、令和５年９月１日が関東大震災から１００年という節目であることも踏まえて、市内小中学校登校時一斉避難訓練を実施しました。

今年度は、代表児童生徒一人一人に任命書と名札を授与し、粕谷市長や小島副市長をお迎えし、みんなで昼食をとりながら、学校の様子を伝えるなど会話をすることにより緊張がほぐれていきました。

食事の後は、粕谷市長が市長室を案内してくださり、子供たちは、普段できない経験をさせていただきました。

代表児童生徒の感想からも「緊張したけれど、お弁当を食べる時、みんなで話をしていて、緊張が少しほぐれました。なかなかできない体験ができて、更に発表ができて、とても勉強になりました。」とあり、緊張をほぐす取り組みが良かったと感じます。また、今年度は、「二次質問」の機会を小中学校それぞれ一校ずつ取り入れました。

小学校からは「災害時の避難について」の二次質問を行い、学校以外にいる時に災害が発生した際の対策はどうすれば良いか質問がありました。消防長から、普段よく行く場所で災害が起きたら、どのような危険があるのか考えておくことや、避難場所・避難経路の確認や家族との安否確認の方法や集合場所の確認などアドバイスをいただきました。また、代表児童生徒全員に袖ケ浦市のハザードマップが配付

され、被害を少なくするための対策を考えておくことが大切であることを教えていただきました。

中学校からは、「チョイソコがうらについて」二次質問を行い、袖ケ浦市の未来を考えて長浦地区以外での運行予定はあるか質問がありました。

企画政策部長から、チョイソコがうらについては多くの好評の声をいただいており、１０月から市内全域でのテスト運行を開始するという回答をいただきました。

代表児童生徒からの感想から成果と課題についてです。

小学生から「他校の発表を聞けて勉強になりました。」「議会の様子も分かり、議員さんの仕事に興味をもちました。議員さんになってみたいと思いました。」という感想がありました。

中学生から「日頃、市議会議員の方々が私達袖ケ浦市民のために一生懸命考えてくださっていることを、身をもって知ることができました。また、他の学校の方々と交流ができたことも貴重な体験でした。今回の私達の意見が市の政治の役に立てば良いなと思います。」といった感想がありました。

先生方からの感想は、「自分の意見や思いを言葉にするという経験ができたことは、参加した児童にとって、大きな自信になったと思います。」や「活気あふれる袖ケ浦市にしたいという思いを伝えたり、市内１２校の代表の発表を聞いたりすることができ、貴重な体験でした。また、議会や行政を身近に感じることができました。」「任命から市長室見学、議会体験と生徒たちは緊張感と使命感を持って臨めたと思います。この機会を得て、自分たちの手で自分たちの市を創りあげるという主体性を持てたのではと思います。」といった感想がありました。

続いて、先生方からの課題については、４月がスタートしたばかりで学級目標を作るなど、最初の班活動を充実させる時期に、子ども議会の代表児童生徒の選出などが組み込まれるには開催時期が早いという意見、代表の生徒を課外学習に出すとなると、翌日以降その子のフォローに回る必要があり、先生方の負担になる部分もあるという意見がありました。

昨年度は、登校時の避難訓練を実施し、今年度は、「差別や偏見をなくすために何ができるか」ということを中学校の代表生徒で話し合いをしたいという意見を受けて、袖ケ浦市内中学校合同代表者会議を開催することとなりました。３回に渡る会議の結果、「袖ケ浦の明るい未来へ」というタイトルでまとめ、生徒会の後輩たちへ託すという形で話がまとまり、その内容を、代表である根形中学校の石川さんが１１月に直接市長へ報告をするという機会を設けました。この報告会には多くの方が列席し、石川さんからは、「子ども議会で自分の発表した内容がここまで実現したことに正直驚きました。今回話し合った内容を後輩に託すメッセージとして今後に引

き継がれることを期待しています。」との感想がありました。

令和７年度についてはまだ計画段階でありますが、引き続き、小中学校に過度な負担にならないように、各学校と連携をして、今年度と同時期、同規模の開催を計画しています。このような取り組みは粕谷市長を中心に市役所全体の協力がないとなかなか実現できませんし、子供たちは貴重な経験ができていると実感しております。

（部長）

それでは説明が終わりましたので、ご質問やご意見をお願いいたします。

（若林委員）

将来の袖ケ浦を考えると、袖ケ浦の将来を担う子供たちには、自分たちの意見が反映される経験を味わうことはすごく良いことだと感じます。

それと同時に、学校の先生方の準備も非常に大変なことと思います。しかし、将来を担う子供たちを育てていく大事な過程だと思うので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

（部長）

ありがとうございました。他にございますか。

（髙野委員）

とてもいい結果を残していると思います。ただ、先生たちの負担を考えると、強制的にならないような環境を整えること、また、システムを形成し継続していくことが大事だと思います。提言については、ポスターのように大きくし、市役所に掲示することにより、市役所に来た市民にも周知することができます。また、子供たちの成果報告や子ども議会に対する評価に繋がっていくのではないでしょうか。

（部長）

ありがとうございました。他にご意見等はございますか。

（教育長職務代理者）

子ども議会については、私も、非常に自慢できる取り組みだと思っています。

また、先日の特別職の給食試食懇談会では、市長たちが全学校を回られたと聞きました。子供たちが、市長や教育長といろいろなお話ができる機会を設けていただ

けてとてもありがたく思います。

（部長）

ありがとうございました。他によろしいでしょうか。

（市長）

子ども議会などの開催につきましては、多大なるご協力をいただき、先生方に感謝しています。昨年度の子ども議会後の避難訓練は、関東大震災から１００年の節目の年でもあり９月１日に実施しました。

今年度は、子供たちと私と副市長、教育長が一緒に給食を食べながら対話をする機会がありました。普段の子供たちの生活の場で、直に話が聞けることはすごくありがたい機会ですので、来年度も引き続き実施したいと思います。

施策の実現に関しましては、昨年度の子ども議会において、トイレの改修についてご要望いただきましたので、３ヶ所同時の改修と学校の増築に関して予算を取っております。これからも、まちづくりや学校環境の整備について、子供たち目線や子供たちの意見を参考にさせていただきますので、ぜひご意見をよろしくお願いいたします。

（部長）

ありがとうございました。それでは議題２につきましては以上で終了いたします。

４　閉会

（教育部長）

これをもちまして、令和６年度第２回袖ケ浦市総合教育会議を閉会させていただきます。

以上

※　個人に関する情報を含む部分については、袖ケ浦市総合教育会議運営要綱第７条により非公開としますが、今回は該当ありません。